

令和2年度 大田区区民協働推進会議（第3回）

日時：令和2年11月10日（水）

場所：大田区役所2階 201・202 会議室

【次第】

- 1 活動報告書（骨子案）について
- 2 その他

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・小林・中島・石垣・小白木・中澤・中原・牛山・須田

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当1名・生涯学習担当1名・協働推進アドバイザー1名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和2年度第3回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、牛山副会長から遅れる旨、連絡をいただいております。</p> <p>ただいま、委員12名のうち10名の方にご出席いただいておりますので、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは、中島会長に進行をお願いいたします。
会長	今井部長からご挨拶をお願いいたします。
	《部長あいさつ》
会長	<p>会議を始めさせていただきます。</p> <p>なるべく短時間で終了させていただきたいと思っております。</p> <p>活動報告の骨子案が本日の議題となっておりますので、事務局から説明をいただきたいと思っております。</p>
	《資料に沿って説明》
事務局	<p>配付資料1をご覧ください。</p> <p>活動報告書の骨子案ということで、報告書の構成、その構成の中にはどういった内容をここに載せていくのかというところを、簡単ではございますがまとめたものです。</p> <p>順番に説明をさせていただきます。</p> <p>冒頭にはじめにということで、会長からの挨拶文を載せさせていただきます。</p> <p>次に第1章、本報告書の目的と調査研究テーマということで、ここは幾つか見出しが分かれております。</p> <p>最初に（1）ということで、本報告書の目的を明確にこちらに書かせていただきます。次に（2）大田区における協働推進の取組みということで、まず区民協働推進会議の位置づけ、これまでの協働推進に関する取組みを改めてここで整理をさせていただきます。</p> <p>続きまして、（3）の部分で令和元年度と今年度進めてきました調査研究テーマとその背景を説明させていただきます。</p> <p>まず、調査研究テーマということで、テーマに関して選定した経過・理由等をここで説明をさせていただきます。次に、②番「協働」が求められている背景、協働における社会や大田区の背景を整理させていただきます。次に③番、生涯学習の動向と大田区の取組み、こちらのほうで生涯学習（学び）、これまでどのような社会背景があ</p>

ったか、または大田区の背景、そちらを整理させていただきつつ、協働と生涯学習を整理させていただきます。次に、④番ということで、新しい時代の流れとしまして、新型コロナウイルスの状況であるとか、SDGsの関係、それと大田区が置かれている社会経済状況、昨今の状況など、そういったものを整理させていただいて、なぜこういう研究テーマが必要であったかというところの裏づけとさせていただく内容を予定しております。

続きまして、第2章、調査の概要です。こちらの部分では昨年度実施した調査の目的、実施方法などを整理させていただきます。結果は、第3章のほうで説明しますので、ここにつきましては、どのような調査が行われたか、どのような内容で行ったか、それと審議した体制の説明、そのようなものを述べます。(1)としては調査の目的、(2)は調査研究の体制として、昨年度は分科会の体制を取って審議を進めていただきましたので、そのような説明となります。(3)に調査方法と対象ということで、調査につきましては共通のアンケート調査、それと、アンケート調査の結果に基づいて、次に個々の分科会で定めた調査内容で行ったヒアリング調査になります。そういった説明と、あとは調査対象として協力してくださった団体、こういったところの選定基準及び団体の説明をさせていただきます。(4)で、調査内容と方向性ということで、概要としてまとめさせていただき、(5)で調査項目の詳細に載せさせていただきます。

資料裏面になります。

先ほどの調査の内容を踏まえまして、第3章では調査の結果を説明させていただきます。会議でも説明している内容をこちらにまとめさせていただくものでございます。

(1)としまして、アンケート調査結果の概要、調査結果のポイントを整理し説明させていただきます。

次に、(2)では、ヒアリング調査結果の概要ということで、ヒアリング調査の結果、ポイントを整理させていただきます。

それらを踏まえまして、(3)調査結果の分析ということで、結果から導き出される課題等を分析し、整理させていただきます。

続きまして、第4章、協働と学びの地域づくりに向けた整理ということで、調査・研究を総括しまして、区民協働推進会議の中における議論等も踏まえ、ここまでの課題を整理させていただきます。5章に出てきます提言につながる内容をここで総括し、課題を整理する流れとしています。

第5章は提言となります。8月に会長、牛山副会長、中原委員に同席いただき、区長に提出した提言書を記載させていただきます。

次に第6章では、今後の施策の方向性と区民・事業者の役割ということで、提言を踏まえまして、区民協働推進会議として協働と学びの連携等をどのような体系、目標であるとか、重点方針、基本施策とするかを、区民協働推進会議としての視点でまとめた内容を予定しています。こちらは、事務局のほうで案をつくらせていただいております。後日、この会議で内容のほうについてはお諮りさせていただきたいと考えてございます。

そして、結びとしまして、第7章では、今後の展望となります。「協働」及び「学び」について、期待される役割など今後の展望を記載しまして、報告書のまとめとさせていただきます。予定でございます。

第8章には、参考資料としまして、これまでやったアンケート結果の詳細、実際区長に出した提言書、それと区民協働推進会議の設置要綱、委員名簿、これまでの活動経過等を資料として掲載し、活動報告書として今年年度末にまとめさせていただければと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

会長

ただいまの説明内容に、ご意見など発言ございますか。

中原委員

推進会議でやってきましたので、1章から5章の提言ぐらいいまでは、イメージがつかえます。6章と7章の今後の方向性と展望というところは、それを踏まえてどのよう

事務局	<p>に書くのが、重要になってくると思います。その辺を事務局としてどのように考えているのかをお聞きします。</p> <p>先ほど、部長からの挨拶の中にもありましており、生涯学習の部分については、計画の策定が予定されています。そのような部分も見据えながら、今後につながる施策レベルの体系を用意したいと考えています。それを、区民協働推進会議の視点からの意見という形で、本来であれば長期基本計画の策定にも取りかかっているような時期でしたので、そういったところの裏づけになるような報告書になればと考えていました。しかしながら、長期基本計画については少し先になりますので、そういった準備としての整理がこの活動報告書の中でできればと考えています。</p>
会長	<p>部長のほうから、何か補足はありますか。</p>
部長	<p>今、係長から説明がありましたとおりですが、少し補足します。生涯学習の計画は、個別計画として明確なものが過去7年間ありませんでした。今時代が変わってきて、デジタル等、高度技術に対応した知識が必要だったり、一方でそういう学びに乗り遅れる人たちも出てくるという課題もあります。大田区としてどのような生涯学習にしたらいいのか、また人生100年時代ということも踏まえ、そんな時代が変わってきた中での位置づけをしっかりとつくっていきたいと思っています。その計画やそうした生涯学習も踏まえて、協働から見た学びの捉え直しというものもしていきたいと思っています。</p>
中原委員	<p>連携・協働が大事だと言われて久しくて、なかなかそれが実践に向かうには、非常にハードルがいっぱいあったというのが今までの現状と感じているところですが、しかしながら少しずつそれが進んできたかなと思っているところです。社会福祉協議会は、地域福祉という分野ですが、地域共生社会という意味でいうと、もう少し広く助け合いとか、絆のある社会ということになれば、学び合っていくということも重要になってきます。それは福祉だけではなくて、地域を視野に置くところでは、この協働と学びの地域づくりというのは、社会福祉協議会や地域福祉はある意味で同義的な、同じ意味的な部分も持っていると思っていますところですが、それを今度は協働というところで、先ほどの会長の話にもありましたが、こういうコロナ禍の中、この時代だからこそ絆とか、つながなきゃいけないところがあり、それをどう実践にしていこうかというのが、我々も含めて考えて、また行動していかなければいけないことと考えます。ぜひその辺を期待しながら、我々も一緒になって考えていければと思います。</p>
会長	<p>動きのある協働じゃなければいけないということですね。本当に机上の計算だけを決めてしまって、全然動きがないというのが現状でした。少しずつ実践に移すということをやっつけていかなければいけないと考えております。この協働と学びの中に、こんなコロナ禍の中でこういうものをどうやって取り入れて、例えば緊急事態宣言があった場合の対応なんかは、大いに協働と学びが必要だと考えております。そういう緊急時に対しても協働と学びというものも具体化しながら、今回はいい例がありますので、平常時ばかり考えずに非常時も考えた中の協働と学びということを織り込んでいただきたいと思います。</p>
小林委員	<p>コロナ禍の中で、今まで協働と捉えられていた活動でできなかった活動というのがあると思うんです。その活動ができなかったことで、どんなマイナスが生じたかというのを確認するのはいい機会なんじゃないかなと思います。そこで得た経験を今後に生かして行って、ここを強くしたほうがいいのかというふうに捉えられると思います。</p>
会長	<p>事務局、この発言について、ご意見はございませんか。</p>

課長	<p>やれていた活動ができなくなっているという状況については、区の施設が全部閉鎖になったことの影響もあったかという部分で、区としてもどうやって今度対処していくのかというのを考えなければいけないと思っています。一方で、地域の中には、こうした中でも取り組んでいたことがあるという声を聞きます。また、できなくなったご相談もいただいております。そのような情報を集めてご紹介するような形でこの会議の中でもご提示させていただきたいと思います。</p> <p>この会議の中でも会長などからも取り組んでいる活動事例などのご報告をいただいたり、ご意見をいただいたりしてきましたので、やれていたことというのを少しずつ拾っていきたいと思っています。</p> <p>それと、提言の中にも新しい生活様式という言葉を入れさせていただきました。そこに対処する具体的な取組、地域で全面的に展開していけるようなものを区としても何か提案ができればいいと考えています。実は区も無策でいくという考えはなく、予算の中でも要求していきたいと思っています。</p> <p>一つは、やはり格差があるものを少しずつ埋めていきながら、活動を充実させていくということです。スマホなどICTを使って活動できている人たちもたくさんいると聞いています。一方では、そういうスキルになかなかなじみがなかった方たちになじむ場を提供していく、そういった取組につなげていくようなことを試行していきたいと思っています。そういった点へのご意見などもいただければありがたいと思っています。今後の会議の中で資料をお示ししていきたいと思います。</p>
会長	<p>社会はどんどん変わって行って、緊急事態があったり、そうでない平常な日常があったりするわけですが、これをつくるに当たりまして、今回の緊急事態に対して、そういうものを具体的に、案としていただきたいと思います。いろんな社会情勢に対応できるような協働と学びでなきゃいけないと思っています。細かく上げると大変なんですけど、大きく幾つか上げながらつくっていただきたいと思います。副会長は、この骨子案について何かございますか。</p>
副会長	<p>来年度、再来年度も含めて、あるいは今後の感染症のほかのものも含めて、また新しい生活様式と言われる中で、市民協働をめぐる状況も変わってくると思うんです。</p> <p>特に、また感染が少し広がり始めている中で、せっかく再開した市民活動とか、地域の活動がまた押さえられるようなことも想定されます。とはいえ、医療のほうもそうだと思いますが、対処の仕方みたいなことも大分分かってきたというか、どんなふうにしたらいいかということもあります。そういった状況をよくまとめて、大田区の状況も振り返って、それに対する備えとか、取組み方を共有していければと思います。あと前にも話題になりましたけども、企業とか市民・個人に対するいろんな支援は結構ありますけれども、市民活動団体とか、あるいは地域の自治会とか、こういったところに対する行政的な支援というのについて、いろいろ考える必要があるかと思えます。そんな点を注意していけばいいのかなと思いました。</p>
志村委員	<p>1の④のところでは新しい時代の流れをとという部分で、調査研究に関してはやったことはもちろん語られるわけですが、小林委員が言ってくれたことも取り上げていただいて、6番の今後の施策の方向性のところで新しい生活様式というふうになってくるのかなと思います。</p> <p>この会議では、私はいつも障がいのある人たちのお話をさせていただいていますが、誰にも平等にこのコロナということが起こりました。今日、私は福祉管理課の防災のマイタイムライン講習会に出ました。今回は、要配慮者向けのものでした。実は私、マイタイムライン講習会は3回目です。1回目は、防災危機管理課のもの、二度目は自分が関わっている障がい福祉の自立支援協議会で自分が開催したもの。3回目が今日です。結局、要配慮の障がいがある人で見ると、地域とつながっていないんです。地域区民としての暮らし方を切り分けていく中に、今度のコロナで試されている部分</p>

	<p>というのがあるのかなど。うまく言葉にできないのですが、障がいという部分であったり、社会の中での格差であったり、そういうことで起こる学びの機会の不平等にまで思いをはせていくと、新しい時代の流れというところでSDGsという言葉がよく使われますけれども、なかなか区全体としては捕えにくい部分ではあるのかなと思います。つぶやき続けて、そこから伝播していったら、区としてどんなふうに捉えられるのかまで少し書いていただけるといいと思ったりしました。この言葉、飛ばしてしまうと飛んでいってしまうような気がします。</p>
<p>会長</p>	<p>志村委員から発言がありましたが、先ほど中原委員がおっしゃったように共生社会の実現ということは、障がい者や高齢者も誰もが協働の権利を持って連携するという本当に共生社会だろうと思います。なかなか、現状では、おっしゃるように実現はできていないと思います。この骨子案をつくるに当たって、一つずつ動きを見せるようになりますと、障がい者の立場になって考えたり、健常者がどういう支援をしたらいいのか、どういう考えを持っているのか、行政はどういうことをすればいいのか、町会はどうかをすればいいのかなどいろいろな案が出てくると思うんです。ですから、骨子案をつくるときは、あらゆる人たちにスポットを当てて、なるべく具体的なものをつくっていただければ、これから動きのある協働ということになりやすいのではないかと考えております。</p>
<p>櫻井委員</p>	<p>新しい時代の流れというところでは、私が業務で関わっている会員さんたちからも流れが変わってきたと聞いており、そういうのを肌で感じているところです。SDGsは全然関係ないかなと思っていたら、日本の企業でもこれに取り組むことで株価に影響があるとか、そういう時代になってきているなと勉強不足を感じているところです。</p>
<p>柳谷委員</p>	<p>この報告書は令和元年度・2年度の2年間のものですが、令和元年度は、こんなになってしまうというのが全く想像できない状態で始まっています。今回の報告書では最初の頃の思いとコロナが関わってしまっただけの関係と、言い方とか、表し方がずれてきていないかと思いました。報告書をまとめていただくときに、それを最初に断っておいてから書いたほうがいいのか、それに合わせてちゃんと作り上げられるのかということは何となく感じました。すごく難しいことだと思いますがよろしくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局から回答をお願いします。</p>
<p>課長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。すごく難しいと思っておりますが、時代の動きがこの2年間にあったという事実をしっかりと据えて、報告書を出していきたいというのが基本にあります。</p> <p>当然、提言を8月にさせていただいたのは8月までの活動を受けてであり、それ以降、実際にこれが発行されるのは3月を予定しております。今日同席もいただいております吉澤協働推進アドバイザーにも各コミュニティについてはご意見をいただいております。今回は骨子という形ですけれども、柳谷委員がおっしゃったような部分ももう少し具体的な言葉として皆様にお示しできるように、次までには、できている部分からご確認いただくような形で、スピードを上げていきたいと思っております。その際にご意見いただければと思っております。</p> <p>この間の時代の動きについては、委員がおっしゃるように同感だと思っております。だからこそこの2年間で書き上げる報告の意味があるかとも思いますので、ぜひご協力いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかの委員からも一言、ご意見をいただきましょう。</p>

須田委員	<p>今、区が一番大きな計画に基本構想というのがあります。大きく3分野に分かれており、第1分野が福祉と教育、第2分野がハード整備、第3分野が協働だったり地域力の分野です。生涯学習がどこに位置づけられているかという点、第1分野の教育の分野に位置づけられています。平成20年の時点ではそのような整理をされていました。そこから10年以上は経過して、この提言にもあるとおり、協働と生涯学習は非常に密接で不可分なものだということ、この12年の間の大きな変化だったのだということを感じております。基本構想の見直しというのは、まだ先の話にはなりますが、この過程で協働と学び、生涯学習というものが非常に親和性の高いものだということ、この会議の中からご提言していただいて体系化するという点に、将来の大田区にとって非常に大きな意味になると考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>回答をお願いします。</p>
課長	<p>そういった計画の動き、大田区の動きなどにこの会議としてどういう表現を発信していくかという点で、ご意見を基調に生かしていきたいと思っております。</p> <p>今、大田区は、重点プログラムというものを2年単位でやってきました。ところが、今年に関していいますと、半年で1回見直す、さらに3月までの間にもう一度見直すという形で、3月までに向こう3年間の緊急的なプログラムをもう一度出して、基本計画について改めての検討に入るというふうに聞いております。そうした点の見識をぜひご意見としていただければと思っております。よろしく願いいたします。</p>
小白木委員	<p>報告書の作成に向けて志村委員からもありましたが、縦割り、横割りが昔から会社であったり、社会でいろいろ使われてきました。金融危機の2000年以降は、各メーカーがいろんなストラをやって、その後の立て直しでは、それまでのトップダウン型からだんだんと自由に行けるようなボトムアップ型に変化してきて、要は経営層はコンプライアンス側に、経営陣として前に行くんじゃなくて、従業員が前に、前にと、それでどんどん業績が改善してきて、日立製作所さんなどはまさにそうだったと思います。</p> <p>会社であったり、行政であったり、自分たちの役割と責任の明確化をするためにも必要な縦割りというのがあるとは思いますが。その一方で、いわゆる企業対企業、行政対行政ではなく、市民、自治体といった一個人を巻き込んだ、まさにSDGsになるんでしょうか、意義ある縦割りではなくて、横ぐしでつながって具体的に実践可能なことを、私自身も考えていきたいと思っておりますし、皆さんと一緒にそのような表現を盛り込んでいきたいと思っております。</p>
中澤委員	<p>私が感じたところは、会長が言われたとおり、動きのある協働ということでは、具体的なことを上げていかないといけないと思っております。それが今後継続されるのか、やはり計画だけで実際に活動がされないのかとか、しっかり検証していく必要があると思っております。そういった部分を本当にしっかりと上げていければというふうに感じました。</p>
石垣委員	<p>私どものところでは学びもありますけども、実際、私の関わっているところは、青少年健全育成に取り組んでいる青少対、それから自治会ですが、具体的にこういうことをしましょうというのが出てきていないです。</p> <p>それで、今年1年は、資金がないんです。自治会は区報配布を財源としている部分があります。区報を配ることで、1部につき2円か3円をいただいています。ですから、コロナの関係でできていないため本当に財源が少ないです。自治会で活動するのにも資金を調達してなくてははいけません。ですが、集まることはできませんし、催し物もできません。</p> <p>それから、青少対も、地域が動かなければ子どもたちも動けません。ですから、今</p>

	<p>ここで何だかんだ言うことができない状況です。もう少し動きが出ないと、ここ1年、まるっきりストップしたような状態で、自治会でも子どもたちの青少対でも動いていません。2、3人でやるとか、10人以下、それから5人ぐらいでやるといっても協働にはならないです。</p> <p>学びというのは、トップにいる人たちの言葉によって動くんであって、本当に底辺は動いていません。コロナの状況が続くかもしれませんが、これがどうにかならないと、学びというのが出てこないと思うのです。ですから、私たちは今どこでもあまり学びということとはできておりません、</p>
<p>会長</p>	<p>一通り骨子案につきまして、ご意見をいただいたところでございます。</p> <p>それでは、骨子案につきましては、ここまでといたしまして、事務局のほうから何か報告がありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日の議論を踏まえまして、報告書の作業は進めさせていただきます。</p> <p>本日は、お手元に二つの助成事業の募集案内のチラシをお配りさせていただいておりますのでご案内いたします。</p> <p>まず、来年度実施していただくチャレンジ助成・チャレンジプラス助成の募集案内です。10月の中旬から募集を開始しまして、来週11月16日に締切りとなります。チャレンジプラスの助成のテーマにつきましては、二つ出ています。一つははねびょん健康ポイントの普及啓発事業です。今、はねびょん健康アプリというものを普及させていますが、それを活用してさらにどんな可能性があるかというところをいろいろな団体に協力していただいて探っていこうというところなんです。</p> <p>もう一つは、羽田空港の跡地水辺における憩いとにぎわい創出等事業です。イノベーションシティがオープンしましたが、これからも第2ゾーン等の開発が進んでいく中で、大田区として、地元として、羽田空港に関心を持っていただき、このにぎわいと、そういった人を誘導するような事業を展開していただきたいと考えています。また、跡地について、大田区民として非常に関心を持って見ていることを、外向けにアピールできればという狙いがあります。</p> <p>こういった二つのテーマで、募集をしております。</p> <p>もう一つが、何回かこの会議でもご案内させていただいている新型コロナウイルス感染症対策区民協働事業です。コロナ禍の中でも頑張っていた区民活動、こちらに向けて、対象経費の限定はありますが、感染対策に関わる経費、もしくは感染抑止の啓発などもしていただくような活動、こういったものに助成の申請をしていただけるという内容です。こちらにつきましては、11月2日から募集を開始しまして、12月15日まで受付しております。事務局で要件、内容等を確認させていただいて、交付決定させていただくものです。地縁に係る活動であれば10万円、テーマ型であれば5万円という形でさせていただく予定でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>コロナ助成の募集案内は、どのように啓発していますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>10月の地域力推進会議で配らせていただきまして、その際には区長挨拶でも事業実施する旨の一文を入れさせていただきました。</p> <p>また、各地区の地域力の会議、及び自治会・町会長会議、こちらでもお配りいただくように、各出張所に依頼し、必要部数を届けてございます。</p> <p>加えて、施設の窓口、オーちゃんネット、ホームページ等でもご案内しております。</p>
<p>会長</p>	<p>区民活動の支援ですから、自治会・町会だけに重点を置かないで、NPOとかいろんな組織、団体がたくさんありますから、どんどん応募をしたらいかかだと思います。できるだけ、皆さんに伝わりやすい啓発の仕方を考えてください。自治会・町会といってもいまそんなに活発に情報が回っているわけじゃないです。なにか簡単なチラシとか工夫をしてください。</p>

事務局	<p>ツイッターでも毎週発信していきます。オーちゃんネットでは、ご希望いただいている団体にメールマガジンをお送りしていますが、そのメールの中でもご案内していきます。目に留まるという意味では今回ポスターは作成して区設掲示板や施設のほうに掲出しています。可能な手段を使って啓発いたします。</p>
副会長	<p>このチラシ見させていただいて、すごくいいことだと思います。多分、こういうことをやっている自治体はまだほとんどなくて、ぜひ頑張ってくださいと思います。</p> <p>例えば私が一般の区民だったら、まず地縁活動とテーマ型活動と言われても分からなくて、どこを見ても説明がないんです。だから、追加で情報を発信していただいてもいいので、どういうふうな活動をもって、そういうふうに分けているのかということの説明いただきたいと思います。もう一つ、応募する立場になると、どのぐらい通りやすいのかなって絶対思っています。何団体ぐらい通るのかとか、予算規模まで書くかどうかは別として、例えば1件とか2件だったら通るわけないと思って出さないとか。そういう点で私が一般区民だったら二つの情報に興味を持ちますので、追加で発信をお願いします。</p>
事務局	<p>募集案内にQ&Aを挟み込んでいます。案内のほうで書き切れない部分について、質問を想定して作成しています。副会長からおっしゃっていただいたような地縁活動についても、こちらのほうでも説明をさせていただいております。</p>
副会長	<p>地縁活動は、地縁団体がやるから地縁活動といえるとか、地縁団体がやるテーマ型活動というのも多分あると思うんです。そのところがいまいち分かりづらいところがあります。なおこれを拝見しても、例えば自治会・町内会なら地縁型だけど、マンション管理組合だったら地縁じゃないということでもないんでしょう。だから、もう少し明確にしてやらないと、応募するほうは戸惑うかなと思います。</p>
小林委員	<p>実際、1週間経過して状況はどうですか。</p>
事務局	<p>問合せは多くいただいています。スタートを切ったばかりなので、実際に申請まで至っているのは数件です。</p> <p>事業が終了している場合は、申請1回で終わりになりますが、計画段階のものについては、事業が終了した段階で事業報告書を提出いただいて、最終的にお支払いするという形になります。そういった部分も多少影響するのかなと思いますので、12月15日にはかなり申請が出てくるものだろうというふうには見込んでおります。</p>
会長	<p>予算はどのようになっていますか。</p>
事務局	<p>補正予算で1,500万円を計上させていただきました。地縁、テーマ型の双方100団体ずつを目安としています。</p>
会長	<p>ほかに何か、今までのところでコロナも含めてご質問はありますか。</p> <p>なければ次回の日程等を事務局から説明いただきまして、閉会にしたいと思います。</p>
事務局	<p>今回は第4回になります。予定では12月の中旬から下旬としております。皆様のご都合のよろしいところで設定していただければと思います。</p>
会長	<p>このような状況ですので集まることはどうでしょう。</p>
課長	<p>今回は、骨子案を読んでいただくことが主となりますので、書面会議という形をご了承いただけるのであれば、そのような形で進めてまいりたいと思います。</p>

会長	<p>書面会議ということでよろしいですか。</p> <p>《全員了承》</p>
会長	<p>今回は、書面による会議とします。 その次の予定はどうか。</p>
課長	<p>書面会議を経て、その次は全体分をご了承いただく場面となります。2月の後半になろうかというふうに、今、練っております。なるべく早いタイミングで情報提供していきながら、スケジュールを打診させていただくような形を取らせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>今回は2月後半ということで来年になります。ご連絡をいただけるとと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>では、コロナ禍にかかわらずお集まりいただきまして、ありがとうございました。会議を終了させていただきます。どうぞ、ご自愛くださいますように、お気をつけになつてお過ごしてください。</p>